

(1) 事業名称等

【事業名称】近現代建造物緊急重点調査事業（土木）

【実施団体】公益社団法人 土木学会

【事業経費】1,441,355 円

(2) 事業の目的

我が国の近現代の優れた建築物や土木構造物（近現代建造物）は、その優れた意匠や高い技術などにより国際的に高い評価を受けているが、文化財としての保存の措置がほとんど講じられていない。これらの適切な保護を図るため、緊急かつ重点的に調査を実施する。

土木調査では、主として 20 世紀に造られた土木構造物について、各分野の括りで、優れた土木構造物の所在地、建設年、規模、構造、図面、現況などに関する情報を集約した。平成 27 年度調査は、調査傾向の把握と調査手法の確立を目的として、一部分野において調査を実施し、その成果を踏まえて評価基準の提案と今後の調査の実施計画の作成を行った。

(3) 業務の実施日程

1) 業務の実施日程

| 業務項目 | 実施期間（27年10月6日～28年3月31日） | | | | | | |
|-----------------|-------------------------|-----|-----|-------|----|----|---|
| | 平成27年 | | | 平成28年 | | | |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
| 1. モデル分野での調査 | | | | | | | |
| ・モデル分野の選定 | ■ | | | | | | |
| ・分野別小史のとりまとめ | | ■ | | | | | |
| ・一次調査リストの作成 | | | | ■ | | | |
| ・二次調査対象物件（案）の選定 | | | | | | ■ | |
| ・ケーススタディの実施 | | | | | | ■ | |
| 2. 評価基準（案）の検討 | | | | | | ■ | |
| 3. 調査実施計画（案）の検討 | | | | | | ■ | |
| 4. 調査委員会の運営 | | | ● | | ● | ● | ● |
| 5. 報告書取りまとめ | | | | | | ■ | |

2) 委員会の開催日程

| 開催回 | 開催日時 | 開催場所 |
|-----|-------------------------------|----------|
| 第1回 | 平成27年11月24日(火) 17時～18時50分 | 土木学会B会議室 |
| 第2回 | 平成28年1月15日(金) 10時～12時 | 土木学会D会議室 |
| 第3回 | 平成28年2月29日(月) 9時30分～11時30分 | 土木学会E会議室 |
| 第4回 | 平成28年3月18日(金) 9時30分～11時30分 | 土木学会E会議室 |

3) ケーススタディ実施日程

- ・調査日程：平成28年3月19日(土)～20日(日)
- ・調査員：岡田一天(株式会社プランニングネットワーク)
中村晋一郎(名古屋大学工学研究科)
- ・調査箇所：天竜川流域の主要な河川施設
(釜口水門(諏訪湖)、美和ダム、小渋ダム、天竜峡(基準地点)、
かわらんべ(天竜川総合学習館)、泰阜ダム、平岡ダム、佐久間ダム
等)

(4) 業務実績の説明

1) モデル分野での調査

「近現代建造物緊急重点調査(土木)」調査は、全体として一次調査及び二次調査の2段階で実施することを想定している。具体的には、一次調査において、調査対象のリストアップと二次調査対象物件の選定を行い、二次調査において、選定された物件の詳細な調査を実施するものである。

この調査の一環で実施した本業務においては、河川分野のうちダム分野をモデル分野として選定し、モデル分野において、一次調査として、調査対象のリストアップを行うとともに、二次調査対象物件の選定を行った。

戦後土木施設は、設計・施工技術の高度化に伴い、各種技術基準の制定や技術の標準化が分野ごとに展開した点に特徴があることから、戦後土木施設の調査は、地域別に全施設を対象とするのではなく、土木構造物にかかわる事業分野や構造物種別ごとに調査を進めることが妥当である。

そこで、本業務においては、他分野への調査方法の展開を念頭に、効率的・効果的な調査実施の観点から、調査委員会の議論を踏まえて、河川分野のうちダム分野をモデル分野として選定した。

ダム分野は比較的その技術的歴史が既往研究において整理されており、かつ、

そのリストも日本ダム協会のダム便覧をはじめ整備されていることから、ダム分野はモデル分野として効率的・効果的な調査実施が期待される。また、ダムは戦後になってから全国で建設が進み、戦後日本の経済成長を支える主要な土木施設としての特徴を具えている点も、モデル分野とした理由である。

モデル分野における一次調査にあたっては、まず調査対象を絞り込むため、モデル分野にかかわる主に戦後の建設動向と技術的系譜を小史として整理した。そのうえで、小史の内容を踏まえ、リストアップの期間や項目に配慮しつつ、既存文献のリスト等を活用して一次調査リストを作成した。さらに、本業務において設置する調査委員会の議論やケーススタディの結果を踏まえ、小史や評価基準（案）の検討内容を加味して二次調査物件を選定した。

2) 評価基準（案）の検討

「1) モデル分野での調査」において取りまとめる当該分野の小史等に基づき、施設単体の技術・意匠・景観的側面をはじめ、技術基準改正時の考え方、各技術賞の評価の観点とともに、施設の都市的な位置づけと地域・国内外への波及効果、背景をなす計画論や一連の施設群としての位置付け等を加味した多面的な分析に基づき、調査委員会での議論を踏まえ、評価基準（案）を検討した。

また、評価基準（案）の妥当性を検証するため、モデル分野の二次対象物件についてケーススタディ（天竜川流域の主要な河川施設（釜口水門（諏訪湖）、美和ダム、小渋ダム、天竜峡（基準地点）、かわらんべ（天竜川総合学習館）、泰阜ダム、平岡ダム、佐久間ダム等）を実施した。

3) 調査実施計画（案）の検討

次年度以降に実施する調査に対して、調査実施計画（案）を作成した。調査実施計画（案）は、モデル分野での調査結果や評価基準（案）の検討、さらに調査委員会の議論を踏まえ作成した。

その際、評価基準（案）の検証にあたって実施するケーススタディにおいて、調査実施計画（案）の妥当性についてもあわせて検証した。

4) 調査委員会の組織・運営

本業務の実施にあたり、各事業分野にかかわる土木史の専門家や実務者等からなる調査委員会を組織し、その運営にあたるとともに、この調査委員会の意見を反映させながら調査を実施した。なお、この調査委員会は、公益社団法人土木学会土木史研究委員会内に「戦後土木施設の歴史・文化的価値に関する調査小委員会」として設置した。

調査委員会は、業務工程の各段階において、計4回開催した。

| 氏名 | 所属等 | 備考(委員会職区分) |
|--------|-----------------------------|------------|
| 佐々木 葉 | 早稲田大学院創造理工学研究科建設工学専攻 教授 | 委員長 |
| 阿部 貴弘 | 日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授 | 幹事長 |
| 大沢 昌玄 | 日本大学理工学部土木工学科 教授 | 委員 |
| 岡田 一天 | 株式会社プランニングネットワーク | 委員 |
| 小野田 滋 | 公益財団法人鉄道総合技術研究所 | 委員 |
| 木村 優介 | 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 助教 | 委員 |
| 土田 宏成 | 神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科 教授 | 委員 |
| 土井 祥子 | 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程 | 委員 |
| 中村 晋一郎 | 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 講師 | 委員 |